

C 3

1 採点上打ち合わせた事項

(1) 審判研修の実施

ア 審判員宣誓の内容を厳守することについて

イ 採点競技の特性について

ウ 新体操の方向性について

エ 審判員の採点・業務にあたっての心得について

(ア) 審判員として、自覚と誇りを持っての審判業務に当たること

(イ) 審判員としてのマナーやモラルの遵守のこと

特に審判員は、会場内での監督・選手との不必要な接触等厳禁のこと

(ウ) 各審判員の採点結果において、今後の男子新体操へ大きな影響を与える事を自覚して、責任ある審判業務を行うこと

(エ) 審判員全員が採点ミスをしないよう細心の注意と集中力を持っての審判をすること

(2) 主任審判員を中心に採点規則及び高校生適応ルールの確認

(3) 男子新体操委員会の男子新体操の方向性についての確認

2 採点上起こった事項とその処理

個人競技において、演技スタート時の伴奏音楽が出なく選手があわてて演技を行うことが生じました。原因を確認しましたところ、音楽係がボリュームレバーを上げるのが遅くなり、最初の伴奏音楽が一部流れませんでした。選手は演技を実施しましたが、一見何もなかったように採点業務がなされ、大きな減点の対象にもなりませんでした。開催者側のミスと判断を行い、監督へ復行意志の確認をしました。監督の復行希望はありませんでした。

3 その他特記事項・意見・感想等

(1) 個人競技・団体競技ともに成績上位者およびチームは競技力がアップしており、特に個人競技における構成内容は、採点規則を充分理解されてきたことを感じる。実施においては、選抜大会のためか未熟さを感じさせる選手も見られた。

団体競技においては、5名または4名による演技、高校総体の構成での出場チームがみられたが、高校総体よりは若干転回系への取り組みに変化が現れたように感じました。

(2) 競技者としてのマナーやモラルについて、数年前よりお願いをしてきましたが、残念なことにまだ不十分な状況にあると思います。本大会のサブ会場が同じ体育館内に設置されており、競技場への入場者が多くなりやすいこともありました。

また、IDカードの着用も指示された方法でない関係者もみえました。

(3) 大会運営について、地元役員の方々及び補助員の大変熱心な大会運営には、多大なる感謝を申し上げます。

(1) 団体競技

- ・団体的同時性に重点に置き、その演技の技術的価値を評価することについて確認した。特に転回系ではバラバラに行うものに対して、多様性を高めるものなのか、技術のばらつきをごまかしているものなのかを見極めること。徒手系では表現的な構成にするため、違う動きを多用する傾向があるので、同時的運動が基本であること。徒手系要素やその運動の組み合わせの価値を重視することなどを話し合

った。

- 全体を通してタンブリングの割合の多いものや、長すぎると感じるタンブリンはその度合いによって0.05～0.3の範囲で減点する。また、組運動が多くなりすぎている傾向もあるため注意することを確認した。

(2) 個人競技

- 転回系の派手さに惑わされず、体の動きと手具操作の一致とその多様性を見抜く。
- 手具の特性に応じた操作を重視する。
- 転回中の手具操作について、難しいものとそうでないもので差をつけていく。
- 投げの技術について、操作をしながらの投げと手具を止めてから投げるものには差をつける。

(1) 団体競技

- 団体的同時性に重点に置き、その演技の技術的価値を評価することについて確認した。特に転回系ではバラバラに行うものに対して、多様性を高めるものなのか、技術のばらつきをごまかしているものなのかを見極めること。徒手系では表現的な構成にするため、違う動きを多用する傾向があるので、同時的運動が基本であること。徒手系要素やその運動の組み合わせの価値を重視することなどを話し合った。
- 全体を通してタンブリングの割合の多いものや、長すぎると感じるタンブリンはその度合いによって0.05～0.3の範囲で減点する。また、組運動が多くなりすぎている傾向もあるため注意することを確認した。

(2) 個人競技

- 転回系の派手さに惑わされず、体の動きと手具操作の一致とその多様性を見抜く。
- 手具の特性に応じた操作を重視する。
- 転回中の手具操作について、難しいものとそうでないもので差をつけていく。
- 投げの技術について、操作をしながらの投げと手具を止めてから投げるものには差をつける。

平成 29 年度 全国高校選抜（福島大会）審判員報告書

C3・C4 審判長

団体競技（男子：構成主審・実施主審、女子：D1・E1）

個人競技（男子：構成主審・実施主審、女子：D1・E1）

氏名（安福康夫）

1. 採点上打ち合わせた事項

(1) 団体競技

- ・団体的同時性に重点に置き、その演技の技術的価値を評価することについて確認した。特に転回系ではバラバラに行うものに対して、多様性を高めるものなのか、技術のばらつきをごまかしているものなのかを見極めること。徒手系では表現的な構成にするため、違う動きを多用する傾向があるので、同時的運動が基本であること。徒手系要素やその運動の組み合わせの価値を重視することなどを話し合った。
- ・全体を通してタンプリングの割合の多いものや、長すぎると感じるタンプリングはその度合いによって 0.05～0.3 の範囲で減点する。また、組運動が多くなりすぎている傾向もあるため注意することを確認した。

(2) 個人競技

- ・転回系の派手さに惑わされず、体の動きと手具操作の一致とその多様性を見抜く。
- ・手具の特性に応じた操作を重視する。
- ・転回中の手具操作について、難しいものとそうでないもので差をつけていく。
- ・投げの技術について、操作をしながらの投げと手具を止めてから投げるものには差をつける。

2. 採点上起こった事項とその処理

- (1) 所属マークが明確に見えない選手について演技後に確認をした。学校名が試合着にプリントされているものであり、色、大きさともには問題がなかったため減点はしなかった。
- (2) 伴奏音楽に歌詞が含まれているものがあったため、構成審判員全員で協議し減点した。

3. その他特記事項・意見・感想等

(1) 団体競技

- ・上位に入ったチームはそれぞれに高度な工夫がされており素晴らしい内容であった。その中でも団体同時性を表現するチームや転回系での同時性を追い求めているチームに高い得点を出すことができたと感じる。団体競技本来の魅力が感じられ目指すべき方向性と思われた。
- ・全体を通じて転回系の割合が多いチーム、長すぎる転回が入っているチームに対しての採点も適正にできたと感じる。

(2) 個人競技

- ・ジュニア時代から活躍をしている選手が多くハイレベルな大会となった。
- ・技の多い選手、難度の高い選手に高めの構成点が出る傾向があった。運動と手具操作の組み合わせ技術の高さをいかに評価していくかについて課題を感じた。

(4) その他

- ・最後に開催県である福島県の役員・補助員の皆様には、大変心のこもった大会運営をしていただき感激いたしました。本当にありがとうございました。

平成29年度 全国高校選抜大会 「審判員報告」

C3・C4 審判長

団体競技（男子：構成主任・実施主任，女子：D1・E1）

個人競技（男子：構成主任・実施主任，女子：D1・E1）

氏名（岡田幸樹）

1 審判事前打ち合わせ事項

- (1) 「動きの量や質」の見極め。
- (2) 技の正確性と難度のとり方・作品全体の熟練性を評価することを確認。
- (3) 審判員が全てに演技に対して自信を持ってジャッジし、その責任において説明が出来るようにすること。
- (4) 団体競技・個人競技ともに我々、審判員や指導者、競技者そして観客の皆さん、大会を支えていただいている多くの方々に恥じる事のない審判を行うことを確認しました。
- (5) 審判技術の向上として、全体的な動きを見抜く力と認める力を養い、感性を磨いたうえで減点のチェックだけにならないようにする。

2 採点上起こった事項とその処理

(1) 個人競技において

- ア 全体的に構成上の難度を多く取り入れようとするため身体運動の動きが粗雑なっていた。
- イ Aの部分(徒手の技術・手具の技術)でもう少し明確に減点できるようにしたい。
- ウ 時期的なこともあるが、「手具」と「動き」の連動性や調和がとれていない選手が多かった。
- エ 難度を無理やり取ろうとして演技全体に深さ・大きさ・スピードそして柔軟性に欠ける手が多かった。

(2) 団体競技において：

- ア どの学校もこの時期大変苦勞されて作品を創り上げて大会に臨んできていただき、来年度の指針となる今大会に審判団としても緊張感を持って審判業務を行った。
- イ 上位チームにおいては、春先を感じさせないほどの実施力の高さを魅せつけられた。

3 その他特記事項・意見・感想

- (1) 今大会を振り返り、審判員が求めている動きの追及や手具や技だけに捉われない連動性を持った洗練された身体運動へのこだわりを持って新年度取り組んでいただきたい。

団体競技において、上位校はこの時期とは思えない程の熟練・洗練されていて素晴らしい演技は圧巻でした。監督さんの想いや選手の不断の鍛錬と日々の練習の取り組まれた姿勢が轟々と伝わってきました。また、地元チームで技術的に上位チームに及ばないものの一生懸命堂々と演技する姿に感銘を受けました。今後、審判団としても新体操の方向性や指針をしっかりと示し、ダイナミックさの中に美しい体操や極限の動きを追求し、可動域の大きさや柔軟性の大切さを見極め評価していくべきだとも感じた。

また、期間中大きな怪我もなく大会が終了できたことは、大会関係者の方々や地元の皆様のおかげだと大変感謝しております。競技終了後のアナウンスで「長時間にわたり審判業務……ありがとうございました。」は、審判員全員が心癒される出来事でした。

さらに審判技術の向上を目指していきたいと思っております。皆様ありがとうございました。